

公明区議団・木下実績ポイント

実績① 長崎の水害・治水対策の実現

椎名町駅周辺は雨水が集まる構造になっていて、かつては夏の豪雨時や台風シーズンに、床下・床上浸水に悩まされてきました。特に平成12年夏には、ひと夏で5回の局地的集中豪雨、浸水被害があり、木下ひろしが現場に駆け付けると、地元商店主からは「引っ越しを考えないと…」などという切実な声が寄せられました。この後、ただちに公明党都議会議員と連携し、高野区長、東京都下水道局に、治水対策を強く要望した結果、サンロードの地下に数メートルの排水管を新たに設置し、長崎小学校方面からの水対策として、「北乃誉」前の区立公園内に巨大な堅穴の一時貯留タンクを埋設するなどの治水対策工事が、平成13年から開始されました。平成21年には全ての工事が完成。その後、この長崎地域の水害被害は一切報告されていません。地域住民の切実な声を受け、木下ひろしと公明都議が連携し、東京都・豊島区を動かし、安全な街づくりが実現したのです。

まかせて
安心20年



新設の排水管⇒

実績② 椎名町駅交番の存続、ガード下の広場の整備



西武池袋線の椎名町駅のバリアフリー化の取り組みにより、エスカレーター・エレベーターが設置され、北口と南口の自由通路も完成しました。しかし、工事の途中、警視庁から当初予定していた北口交番の存続が難しくなった、との話がありました。これには、地元住民、商店街、町会が猛反発。「地域の安全のためにも北口交番は絶対に必要！」との声を受け、木下ひろしは関係者に強く要望してきました。

公明党都議とも連携し、高野区長、警視庁本庁、目白警察、西武鉄道などの関係者にかかけあい、存続を強く働きかけました。その結果、西武鉄道の絶大な協力により、現在の位置に交番を設置することができ、地域住民の皆様大変喜ばれています。

また、環状六号線椎名橋下の広場の整備は、地域住民の要望である、コミュニティ広場と駐輪場が整備され、放置自転車対策が図られ、神社の祭礼や各種地域行事に活用されています。完成後も、照明設備を追加設置。橋脚の空きスペースを地域行事の際の備品置き場とするなど、地域の皆さんに愛される広場整備に努めてきました。

実績③ スポーツセンター、温水プール、体育館、サッカー場、バス停設置

平成16年ごろ、少子化によって旧区立長崎中学校など、近隣の3つの中学校が1校に統合されることになりました。木下ひろしは、地域住民の皆様の声、この事業に反映しようと奔走。その結果、長崎中学校の跡地は、地域住民の要望も取り入れながら、区の西側のスポーツ拠点として、温水プール、体育館、サッカー場などに生まれ変わることが決定。併せてバンド演奏ができるスタジオ、健康のためのフィットネスなどの機能も備えた施設に整備されることになりました。

平成24年4月に、温水プールと体育館が完成。平成25年に屋外の多目的広場＝サッカー場がオープンしました。区内で1番高い利用率で、区民優先利用を推進します。

また、「南長崎三丁目バス停」の新設を実現したのも木下ひろしです。従来は南長崎4丁目と南長崎2丁目は約800M離れていました。地域住民の要望を受けて、木下ひろしが公明都議に繋ぎ、都議会でいち早くバス関係者に要望。平成21年には「南長崎3丁目バス停」が完成して、高齢者が遠い停留所までいくことなく、新宿方面、池袋方面バスに身近に乗ることができるようになり、大勢の方から喜ばれています。



実績④ 漫画の聖地・トキワ荘、マンガ文化発信事業、お休み処



手塚治虫さんを中心に、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、藤子F不二夫など、世界的な漫画の巨匠たちが、技を磨き、作品を世に送り出した漫画の聖地「トキワ荘」。木下ひろしは、平成7年初当選から「トキワ荘・マンガの聖地＝文化発信事業を！」と提案、要望し続けてきました。

平成11年に高野区長が就任してから、やっとトキワ荘・漫画文化が着目され、平成18年には「トキワ荘のヒーロー達」という石碑を近隣の公園に設置できました。平成22年にはトキワ荘が実際あった場所に、地主さんのご理解をいただき、「トキワ荘」の石碑を建立。トキワ荘を訪れる来街者のための、交流の場である「トキワ荘通り・お休み処」も平成25年12月にオープンし、多くの来館者でにぎわっています。

今後は、実物大のトキワ荘の再現目指して、関係の皆さまと協力して取り組んでまいります。また近年、若い方に人気のある「アニメ」についても、池袋に「アニメイト本社」が移転したのをきっかけに、トキワ荘文化と近代アニメのコラボ事業が実現。さらに、平成26年には区内千早に事務所を数十年構え、三国志、鉄人28号、魔法使いサリーちゃん等の力作を世に輩出した、横山光輝さんの展示会も開催されます。

実績⑤ 椎名町公園の防災公園整備、消防団活動の支援

南長崎1丁目の椎名町公園は、もともと都営住宅用地でしたが、住宅の老朽化とともに、地元区への用地移転がなされ、豊島区は公園用地として整備を始めました。全ての立ち退きが終わり、公園の本格整備を地域住民の代表を交えた協議会で検討。割れた食器など旧住宅の生活ガラを取り除き、安全を確保。加えて、木下ひろしが主張してきた、災害時の防災機能を備えた各種用具が設置されました。

普段はベンチとして利用し、災害時には炊き出しができるかまどに変身する「かまどベンチ」、非常トイレを下水マンホールの上に設置して直接下水に流すことができる「マンホールトイレ」など、大災害時に対応した設備が実現したのです。



また、木下ひろしは、平成7年から消防団員として活動してきました。毎年の池袋消防団ポンプ操法大会には16年連続して選手として出場。個人賞も数多く受賞しました。議会においては、防災リーダーである消防団活動に、区の積極的な支援を強く要望。分団拠点の設備の充実や、手狭な分団拠点の近くの区有施設を消防団活動に活用するなど、消防団活動の支援に取り組んできました。

実績⑥ ICTを活用した区民サービス、新庁舎の新しいサービス実現

木下ひろしは、半導体の商社勤務の経験を生かして、行政の効率化、ICT活用を推進してきました。来年春に完成する新庁舎には、ICTを活用した行政サービスが様々な形で実現。総合防災システムは、新庁舎5階の災害対策本部と区内30数か所の小中学校の救援センターと情報を送受信。CCDカメラで救援センター周辺の情報を画像で掌握。ワンクリックで災害緊急情報を拡声器、Twitter、FaceBookなど、SNSに瞬時に情報伝達できる情報伝達システムを実現しました。新庁舎3階の総合受付には、総合窓口システムにより、たらい回しをさせないワンストップサービスの体制を構築。新庁舎4階の福祉総合フロアでは、福祉総合システムにより、障がい者福祉、高齢者福祉、児童・女性福祉、それぞれのサービスの申請受付、相談業務の効率化が図られます。

また、区の地図情報＝GISを活用した地図情報を、広く区民に公開する取り組みも、新庁舎開庁に合わせ、準備が始まっています。木下ひろしが提案してきた、体育館などスポーツ施設の「区有施設申込みシステム」も起動。家にいながら、スポーツ施設、区民センター等の予約が可能となり、多くの利用者から喜ばれています。

